

給餌制限したアマゴ種苗のパー出現率

吉岡 剛

1. 目的

滋賀県河川漁業協同組合連合会より、醒井養鱒場のアマゴ種苗は銀毛（スマルト）が多いため、パーマークの美しいアマゴを供給してほしいとの要望があった。過年度の試験から、アマゴ種苗のパー個体の割合が以前に比べて低下していることが明らかとなった。

そこで、既存のアマゴ種苗を用いて、パー個体の割合を向上させることを目的として、給餌制限についての検討を行った。

2. 方法

令和3年10月14日に養殖事業で生産されたアマゴ受精卵を試験に用いた。

令和3年11月10日に検卵を実施し、発眼卵300粒を60cm水槽に収容した。

令和4年4月1日に全個体の体重を測定し、トビとビリを除いて100尾ずつ60cm水槽に収容した。

収容後に給餌制限区はライトリッツの給餌率表の半量を、対照区はライトリッツの給餌率表の全量を給餌した。なお、試験期間中の水温は約12℃で一定であった。

毎月中旬に体重の測定を実施し、9月以降は体重測定時にパー個体の判定も併せて実施した。

3. 結果

試験に使用した卵の発眼率は98.5%、ふ化率は97.7%であり、4月の収容時点の平均体重は給餌制限区で1.76g、対照区で1.80gであった。

平均体重は、9月に給餌制限区8.38g、対照区28.41g、11月に給餌制限区13.39g、対照区53.02g、2月に給餌制限区25.24g、対照区112.02gで推移した（図1）。

9月のパー出現率は、給餌制限区で97.8%、

対照区で8.0%であった。その後、給餌制限区では、パー出現率がやや低下する傾向が見られたが、2月のパー出現率は、給餌制限区で69.8%、対照区で8.0%と給餌制限区が明らかに高い状況にあった（図2）

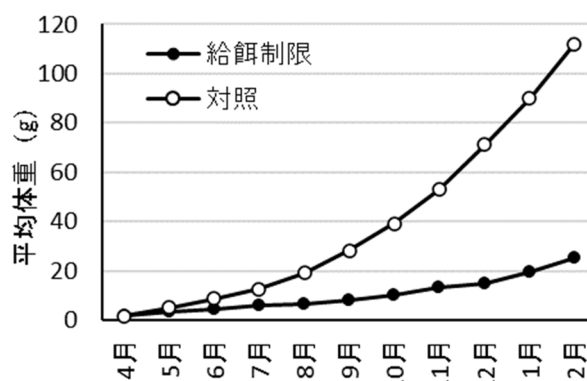


図1 平均体重の推移

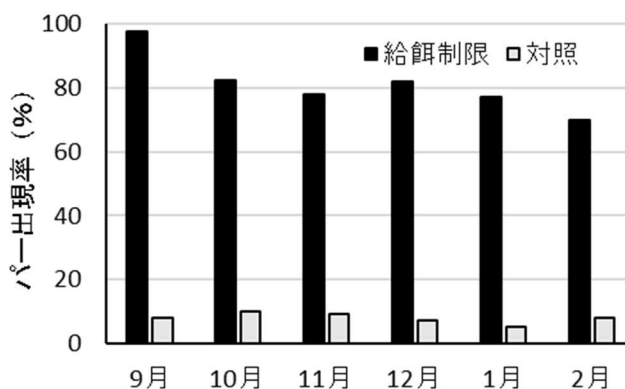


図2 パー出現率の推移

給餌制限を行うことで、既存のアマゴ種苗でも、パー出現率を向上できることが明らかとなった。しかし、放流魚としては小型であるという課題が残った。